

エコール・ド・パリの画家

# 板倉 鼎を

かなえ

ご存じですか

Kanae & Sumiko Itakulla



板倉鼎 「休む赤衣の女」(1929) 個人蔵 (松戸市教育委員会寄託)



[itakurakanae.com](http://itakurakanae.com)



千葉県松戸育ち、東京美術学校  
(現 東京藝術大学) 卒業後、一九  
二六年妻須美子と共にパリに留  
学。明るく洗練された色彩と堅  
固な構成のモダンなスタイルが  
評価されサロンドートンヌ入選  
も果たしたが、二十八歳の若さ  
で客死した。現在、松戸市教育  
委員会美術館準備室を中心  
に再評価を進めている。

## 板倉 鼎 (1901~1929)

## 板倉 須美子 (1908~1934)

ロシア文学者昇曙夢の長女とし  
て生れ、与謝野鉄幹、晶子の媒  
酌で鼎と結婚。パリで鼎の手ほ  
どきを受けて制作を始め素朴で  
詩情豊かな作品が藤田嗣治に  
絶賛された。夫、幼い娘二人を  
相次いで亡くし本人も帰国後肺  
結核で早世した(二十五歳)。

## 一般社団法人 須美子の 画業を 伝える会

Kanae Itakulla  
Sumiko Itakulla

代表理事・会長

水谷 嘉弘

博物館学芸員資格者

e-mail

yoshimiztani@gmail.com



板倉須美子 「ベル・ホノルル21」(1928)

松戸市教育委員会蔵



2019年 松戸市 聖徳大学博物館で開催された「フジタとイタクラ展」会場風景  
NHK・Eテレ「日曜美術館アートシーン」、NHK「ラジオ深夜便」でも紹介された